

「初冬の高尾山紀行(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもの頃、新宿駅に停まっている小田急のロマンスカーを見て、「京王線の高尾山口行にもあんな特急があつたらいいのになー」といつも思っていた。



小田急は新宿から小田原までの距離も時間も長いし、箱根登山鉄道の箱根湯本駅まで乗り入れるので、観光需要が大きい。京王線の場合、特急で高尾山口まで行っても1時間以内で、小田急のような「有料特急」を走らせても需要が見込めなかったのだ。ところが、東武東上線に「東上ライナー」という「有料着席列車」が登場し、通勤時間帯の下り列車を中心に走らせたところ大好評となった。京王もそれに追従する形で、「京王ライナー」という新型車両を投入したのだ。



東上線と同じように、主に京王でも通勤時間帯の下り列車での運用が多い。しかし土日は、新宿～高尾山口を往復する「マウント高尾号」としても活躍している。もちろん、高尾山観光の乗客を狙ったものだ。



私が子どもの頃に思い描いていた通りの電車と、約50年を経て出会えた一瞬だった。前面行先表示も、イラスト付きでなかなかカッコイイ。



車内にはクロスシートが並んでいて、この日はほぼ満席だった。座席を通路側に向けることも可能で、通常のロングシート車両としても運用できるように工夫されている。事前にPCやスマホから席を指定でき、決済も終わる。その場合、紙の特急券は不要で、指定した席に座るだけだ。料金は410円で、横須賀線のグリーン車よりも安い。ただし、座席指定券を買わないで乗ると、車掌さんに700円も徴収される。



私は1号車の最前部の座席を予約しておいた。視界はあまり良くないが、すれ違う電車が良く見えて、楽しかった。つつじヶ丘、府中、高幡不動、平山城址公園など、なつかしい駅も次々と目に入ってきた。